

オーディオ協会監修 井筒香奈江 Laidback2018

制作レポート

照井 和彦 JAS 事務局長

オーディオ協会では今年2つの音源制作の監修をお手伝いしました。本誌3月号に引き続いてのレポートはソニー・ミュージックスタジオにて「井筒香奈江 Laidback2018」が制作開始された様子を中心にお伝えします。

企画と監修

前作アルバム「リンデンバウムより」が発売され新たな企画を考えていた井筒さんご本人が、録音をエンジニア高田さんへ依頼したところから物語は始まります。それならば録音スタジオを乃木坂にあるソニー・ミュージックスタジオに求めてと、2017年11月の収録実施となりました。オーディオ協会からは録音制作している現場を立ち合わせさせてね、というささやかなお願いだったにもかかわらず、結局収録本番のスタジオにメンバー御一統で押し掛けるといふ事態を引き起こしてしまい、監修しますから、という口実で井筒さんに話しをまとめてもらいました。

Photo by Kumi Watanabe



スタジオコントロールルームで作業を見守る20名の立ち合いメンバー

11月14日・録音一日目

ソニー・ミュージックスタジオ STUDIO 1 で午前10時ピアノ調律開始。エンジニア高田さんがやって来て手持ちのCDを聴きながらラージモニタースピーカーとスモールスピーカー Genelec 1031A のサウンドチェックが始まります。10時半にはベースの小川さんが今日の機材一式を持ってスタジオに入ってきました。

その間にスタジオの小坂君と川島君がピアノマイクをセッティングしてくれています。調律中の音で SANKEN CO-100K と SONY ECM-100U の音色を確かめ、使うマイクロホンを選定していきます。ここでは CO-100K でピアノ胴体の響きが良好に聴こえました。



マイクロホン位置を微妙に動かしながら決めていきます（写真右がエンジニア高田さん）



持ち込まれたベースアンプヘッドとスピーカー部を調整してマイクロホン位置を決めます

11時過ぎにピアノの藤澤さんもスタジオ入りします。様子を見ながら細かい点を調律師へ指示を出していきます。正午前には442Hzでチューニングされたスタインウェイが整いました。

調律されたピアノを藤澤さんに弾いてもらい、セッティングされたマイクロホン3ペアの音を決めるために試し録音します。マルチチャンネル収録用で 192kHz32bit 設定の ProTools (レコーダー) と、同時録音 2 チェンネルモニターバランスの取り込み用で DSD 11.2MHz 設定の Pyramix (レコーダー) それぞれの再生音を確認しましたが、DSD を再生した瞬間、藤澤さんからは密度が濃いというコメントがありました。



ピアノとベースの音が決まった頃、井筒さんがスタジオに到着。さっそくブースに入ってもらいマイクロホン Neumann U67 を設置します。モニターヘッドホンは持参の AKG とスタジオ常備の ソニー MDR-CD900ST など聴き比べ、今回は JVC とビクタースタジオが共同開発した HA-MX100-Z を選択。ヘッドホンモニターの感じが唄い易い、というコメントでした。

メンバー三人が揃って音が出始めましたので、演奏収録が始まります。ピアノ、ベースに加えてボーカルが入った録音で午後1時スタートは異例に早い開始時間で、井筒さんが規則正しい生活を送り、この録音のためにトレーニングを積んだ賜物が、この背景となっているようです。

「Little Wing」から「美人薄命」、そしてオリジナル楽曲「アネモネ」と順調に録音が進みます。3時半に一旦休息をとって「Songbird」と、やはりオリジナル楽曲「部屋に吹く風」そして「You Are So Beautiful」と軽やかに録音は進み「Little Wing」をもう1テイク収録し、「Light My Fire」を練習してこの日の作業は終了しました。

11月15日・録音二日目

録音2日目は全員午後1時にスタジオ集合。ここで冒頭紹介したオーディオ協会選抜メンバーによる録音立ち合いがありました。収録曲はこれもオリジナル「雨の鼓動」で、サポートメンバーのフルート中川さん、パーカッション大久保さんもそれぞれのブースに入ってもらいます。



Photo by Kumi Watanabe



立ち合いメンバーが帰ったあと、改めてプレイバック試聴している様子

引き続き「サクセス」の収録に少し時間を要しましたが「Light My Fire」までの全9曲を2日間で無事におえることができました。

下のブロックダイアグラムは2日間の録音の信号の流れを概念的に示すものです。ボーカル、ベース、ピアノ、パーカッション、フルートに立てられたマイクロホンとベース DI からの信号はすべて Neve 製ミキシングコンソールに取



Photo by Kumi Watanabe

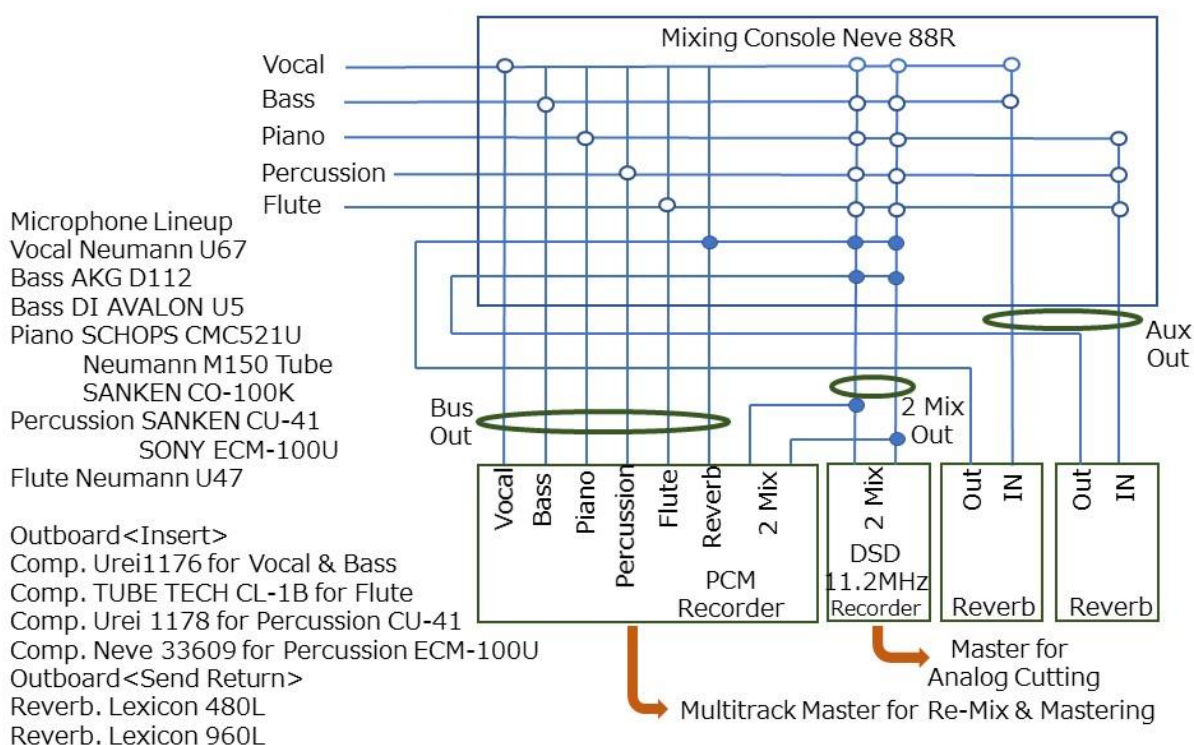


Photo by Kumi Watanabe

り込まれます。適正な信号レベルに調整されたそれぞれの信号はPCM Recorderに平行に録音（マルチトラック記録）されます。この時ピアノからの3ペアのマイクロホン信号はミキシングして2チャンネルステレオ信号として録音し、ベースも同様マイクロホンで拾った信号をDI経由の信号とミキシングして録音。パーカッションも2ペアのマイクロホン信号をミキシングして2チャンネルステレオ信号としています。



ラックに収まるアウトボードの機材

一方、収録時のモニターバランス信号を、DSD 11.2MHzでダイレクト録音しバックアップとしましたが、これが後で生きてくるのです。

全録音から採用テイク（OK テイク）を選び、アルバム全体の様子が見え始めます。この時点でオーディオ協会監修のアナログLPレコード、しかもスタジオで聴いた素晴らしい音のフレッシュさを保ったままで作ろうという企画が固まりました。



Photo by Kumi Watanabe

12月9日・リミックス



いよいよリミックス作業です。ボーカル、ピアノ、ベースに加え、ゲストミュージシャンのパーカッションとフルート、それぞれの音を合わせて一つの音楽として組み立てていく作業で、神宮のビクタースタジオ202リミックスルームで慎重に進められました。芳醇なサウンドが次々と仕上がっていきます。



12月28日・マスタリング



年末の押し詰まったこの日、同じビクタースタジオ内にある FLAIR マスタリングワークス 212 スタジオでリマスタリング作業を施します。無事にステレオ音楽となったデジタルマスター（192kHz/32bit）から、CD 用（44.1kHz/16bit）とハイレゾ（192kHz/32bit）マスターを仕上げます。同スタジオで同一日の録音収録でも、全9曲ともなると音量バランスを整える必要があります。また、ベースはより深い低音に、ピアノは音の粒立ちと音質的な濃厚さが、そしてボーカルは歌の表情や表現が豊かになって、一曲ずつ仕上がっていきます。



Photo by Kumi Watanabe

ここまでで出来あがった CD マスターをメモリーテックに納品して、UHQCD マスタリング（原盤製作）しプレスされたディスクが皆さんのお手元に製品として届くのです。

Laidback2018 収録楽曲

- 1 Songbird (4:28)
- 2 Little Wing (5:39)
- 3 サクセス (3:31)
- 4 美人薄命 (5:27)
- 5 雨の鼓動 (4:45)
- 6 アネモネ (4:49)
- 7 部屋に吹く風 (6:20)
- 8 Light My Fire (4:22)
- 9 You Are So Beautiful (5:48)

CD の発売と同時にハイレゾファイルもダウンロード販売を開始したこのアルバムですが、全てこれまで解説してきたリミックスとリマスタリングが施された音源です。

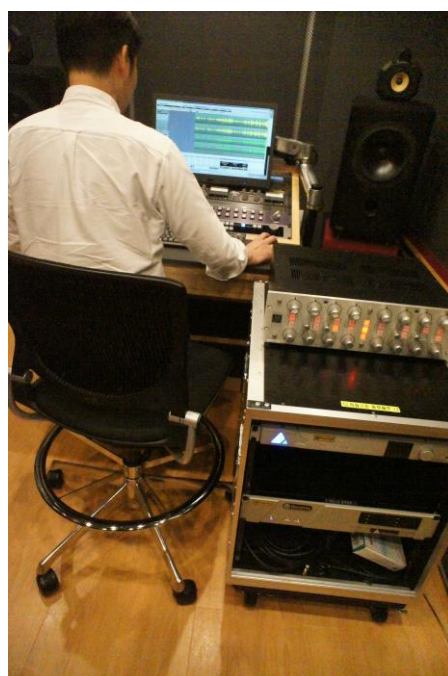
4月3日・レコードカッティング

オーディオ協会監修で井筒香奈江さんのアナログ LP レコードを製作したいという思いは早い時期から構想しておりました。音源が完成するまで最終判断は出来なかったのですが、今回マスターの仕上がりが素晴らしいものでしたので、迷わず DSD 11.2MHz デジタルマスターからの製作として決定しました。前述のブロックダイアグラムにある通り、ソニー・ミュージックスタジオで演奏の同時録音モニターバランスのマスターです。CD やハイレゾファイルと同じ収録テイクを使用しましたので、ミックス違いやマスタリング無し・有りなどをお楽しみ頂ける企画です。



(写真上) カッティングマシン上のラッカー盤

(写真右) ラックに収まるのが Pyramix DAW マシン



作業は再びソニー・ミュージックスタジオに戻り実施しました。11月14・15日の収録で稼働した Pyramix マシンをカッティングルームに持ち込んでそのまま DA 変換した信号をカッティングマシンに送り込みます。Side-1 に 2 曲、Side-2 には 1 曲と、贅沢な使い方で 45 回転盤とし、しかも外周に音溝を集中させることでフレッシュな再生音を目指しました。

さっそく試しカッティングしたラッカー盤を SL-1200G/DL-103 で検聴です。DSD 11.2MHz マスターの持つ瑞々しいサウンドがそのままカッティングされており、その場で全員がふっと息をのむ思いでした。これならば最終の LP レコード盤の仕上がりもたいそう期待できるのではないかと確信しました。



4月24日・アナログLP プルーフ盤試聴

ラッカー盤からの原盤製作とプレスは東洋化成にお願いしました。通常はメタルマスター→メタルマザー→スタンパー→ビニール盤となる製造工程を、メタルマスター→ビニール盤としてスタンパー工程を省略します。メーカーや製造方法によって多少の違いはあるようですが、この方法では一枚のラッカー盤からはおおよそ 1000 枚のビニール盤しか出来上がりません。その分、音の鮮度が確保されることを期待します。



プルーフ盤の試聴はラッカー盤カッティングを行ったソニー・ミュージックスタジオのマスターリング 11 ルームに持ち込み、同じく SL-1200G/DL-103 で行いました。結果はラッカー盤で聴いた音の鮮度がそのまま記録再生され、狙い通りの仕上がりになっておりました。同じプレス機から重量盤（180g）と通常盤（130g）の作り分け製造ができませんので、今回は重量盤での進行になりますが、これらの違いでの音質の聴き比べができれば面白いかなと思いました。

この原稿を仕上げている間に東洋化成でプレス作業が進められ、オーディオ協会に納品されます。6月16日の OTOTEN 初日に販売開始予定ですので皆さん楽しみにしてください。十分な枚数をご用意致しましたが、品切れになった場合には追加生産を行う予定です。



Photo by Kumi Watanabe

AD-2「井筒香奈江 Laidback2018」について

仕様：30cm LP アナログレコード
(45回転 180g 重量盤・簡易パッケージ商品)

音源：演奏同時録音ラフミックス DSD 11.2MHz マスター

流通：(一社) 日本オーディオ協会企画直売商品

収録曲 Side-1

- 1 サクセス
- 2 雨の鼓動

収録曲 Side-2

- 1 You Are So Beautiful

スタッフ

Recorded Mixed & Sound produced：高田 英男 (ミキサーズラボ)

Assistant Engineer：小坂 剛正 川島 尚己 (ソニー・ミュージックスタジオ)

Disc Mastered：堀内 寿哉 (ソニー・ミュージックスタジオ)

Studio Booked：後藤 朱美 伊藤 晶子 (ソニー・ミュージックスタジオ)

Vinyl Pressing：松下 源 (東洋化成)

Vinyl Label Design：澁谷 ゆう子 (NOMOS)

Production Supported：校條 亮治 (日本オーディオ協会)

Produced：井筒 香奈江

